



### ●村のかじや記念碑

「金物のまち」としてのイメージを永く残すため、金物資料館前庭に設置されている、唱歌「村のかじや」記念碑

#### 村のかじや 歌詞

- 一、しばしも休まず つち打つびき  
飛びちる火花よ 走る湯玉  
ふいこの風さえ 息をもつがず  
仕事に精だす 村のかじ屋
- 二、あるじは名高い 働き者よ  
早起き早寝の やまい知らず  
永年きたえた 自慢の腕で  
打ち出すきくわ 心こもる

### ●登録有形民俗文化財に登録

「播州三木の鍛冶用具と製品」(鍛冶用具324点、製品300点の総数624点)が国の登録有形民俗文化財に登録されました。兵庫県では初めての登録有形民俗文化財となります。



### 三木市立 金物資料館

〒673-0432  
兵庫県三木市上の丸町5番43号  
TEL.0794-83-1780 FAX.0794-83-1780

- 開館時間/10:00~17:00※入館は16:30まで
- 休館日/月曜日(祝日の場合は開館)  
祝日の翌日(祝日の翌日が土・日の場合は開館)  
年末年始(12月28日から翌年1月4日まで)
- 入館料/無料

#### 交通のご案内

神戸電鉄「三木上の丸駅」徒歩6分  
神姫バス「上の丸」徒歩6分



MIKI CITY HARDWARE MUSEUM

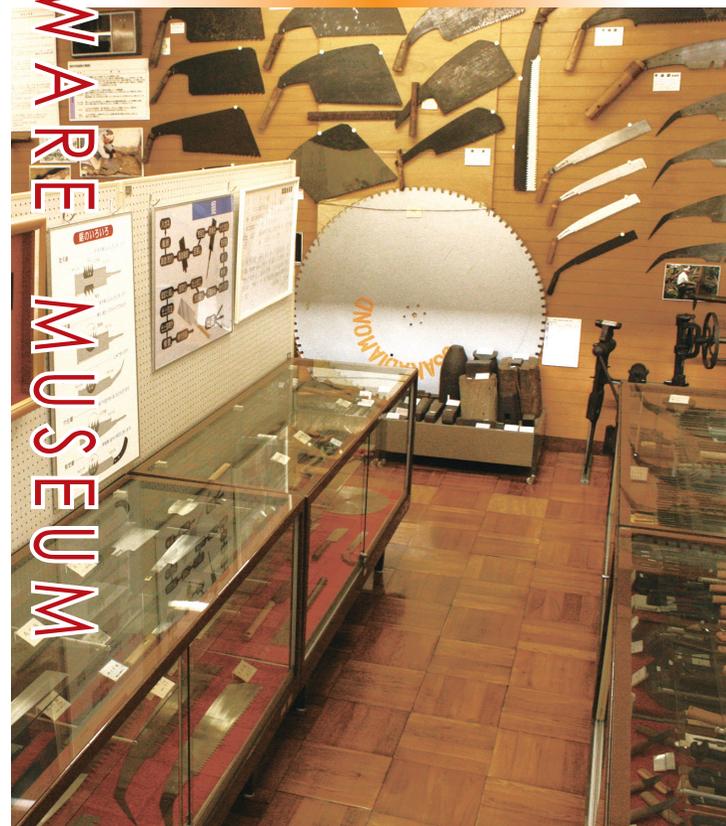
# 三木市立 金物資料館

三木金物の原点が此処にある



### ●三木市立金物資料館外観

【施設】鉄筋平屋建・校倉様式 176㎡  
(展示室160㎡・管理室16㎡) 竣工 昭和51年6月



三木金物は単なる特産品ではなく、三木市民のアイデンティティの根幹をなす文化として愛され続けています。しかし、時代の進展とともに金物産業も伝統的な手工業から機械工業へ移行し、古来から伝わる伝統技術や歴史的な金物製品が散逸する懸念が生じていました。そこで、昭和49年8月、貴重な資料を収集・保存する施設の建設資金として小林恒美氏から3,000万円の篤志が寄せられ、金物資料館が建設されました。

# TREASURE HOUSE OF INFORMATION



写真の三木金物は、「播州三木打刃物」として経済産業大臣の指定を受けた伝統的工芸品です。



先人達の偉業に触れる。



金物資料館で三木金物の原点に触れた後は、建物を出てすぐ隣の金物神社にも足をお運びください。

金物神社は昭和10年に三木金物販売同業組合の呼び掛けで創建されました。

金物神社は金物に縁のある古代の三神、天目一箇命あめのまひとつのみこと（鍛冶の祖神）、金山毘古命かなやまひこのみこと（鉄鋼の祖神）、伊弉許理度売命いしりどめのみこと（鋳物の祖神）を金物業者共同の守護神として奉斎しています。

毎年12月第1日曜日にはふいご祭が行われます。

## 金物神社

## 三木市の金物の略史

およそ千五百年前、この地方の大和鍛冶と百済からの技術集団である韓鍛冶が合流し、鍛冶を行ったのが金物のまちの起源であるといわれています。

その後、仏教が伝播したことによる寺院建築の需要増加に伴い、鍛冶屋の数も増えました。さらに、武家の勃興以来、その勢いは大きくなり、特に別所氏の築城と地子免除、三木合戦後の復興事業などを経て、鍛冶屋の数が増加したと考えられています。

江戸時代には鍛冶組合や問屋などが登場し、三木の金物特産地としての地歩が固められ、十九世紀初め頃には、その販路は大阪や名古屋、江戸にまで及びました。

明治維新により、我が国の内外における情勢は急変し、三木金物製造業にも変革の波が押し寄せました。それまで和鋼・和鉄のみを原材料として使用していた打刃物も、洋鋼・洋鉄の輸入によって大幅に改良されました。日露戦争時には、従来の大工道具に加えて、軍用品としてシヨベル、スコップ等の新しい種類の製品も製造されるようになりました。設備も近代化し、品質の均一化と量産化が進み、大規模な工場も建設されましたが、第二次世界大戦が勃発すると、戦時統制経済が強制され、軍需生産に切り替えられることになりました。

戦後、荒廃した国土の復興と建設によって、大工道具の需要が急増しました。三木市内では軍需工場から転換し、いち早く金物の生産が始められたため、全国各地から多くの小売店が市内に殺到しました。

金物製造業者は、戦後まもなく三木利器工器具工業協同組合、三木鋸工業協同組合をそれぞれ設立し、三木金物の発展のため組織的な連携を進めました。この両組合は後に合併し、三木工業協同組合となり、現在もさまざまな活動を行っています。

戦後復興の好景気が一段落した後、三木金物製造業者のうち有力なものは、地元の問屋を組織して代理店販売の形式を採用するとともに、直接大阪、名古屋、東京へ進出し始めました。地元の間屋もそれぞれの販売網を確立し、全三木金物卸商協同組合が設立されました。

その後、景気動向による影響を受けながらも、技術革新や効率化に取り組むことで、今日では、三木市は伝統的な大工道具をはじめ、作業工具、農機具、園芸用具など多種多様な金物製品を生産する、日本屈指の金物産地として、国内外にその優秀な製品を供給しています。

平成八年には「播州三木打刃物」が国の伝統的工芸品の指定を受けました。また、平成二十年には「三木金物」が地域団体商標（地域ブランド）として登録されています。

### ●古式鍛錬の実演

実演は原則として毎月第1日曜日の10時～13時に行われます。ただし、6月～9月は9時～12時。

